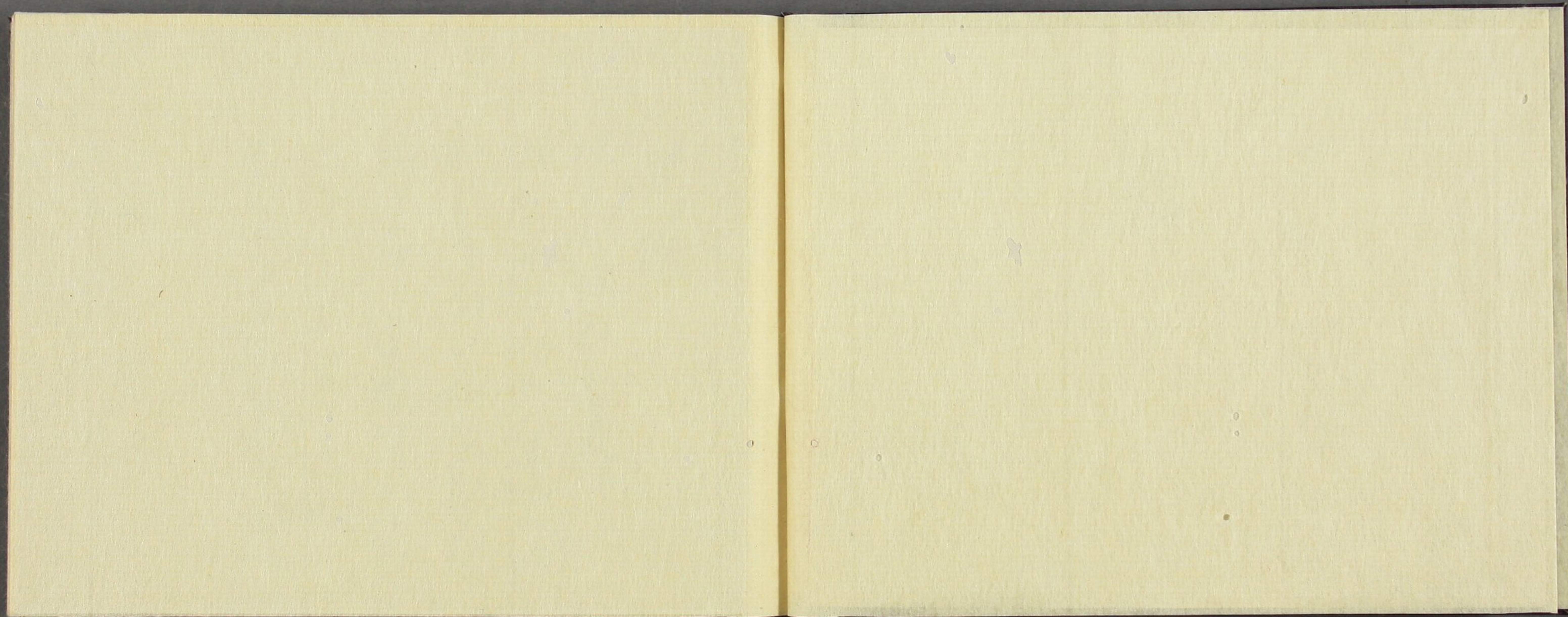


最





早蕨

以言并銅力老老

けふかぬらふをんちまの

かこし所あるぬのわらひ

銅の蕨とらわありとらひ

けく〜おのまにまのれ

蒼元ア角縁の次の子風也

蕨^{ワラビ}毛 蕨日 敬龜 日在 土^{ツチ} 影
本草疏云 周秦曰 蕨亦
魯曰 敬龜 俗云 其初生 似鼈
脚 故 若之云 蕨 各別
物 云 周 臣 也 云 云 云

いよこころして
ふにわくまの 大 暮 云 云 云
と 洞 洞 洞 洞 洞 洞 洞 洞
云 云 云 云 云 云 云 云
ある法師の 似 命 云 云

長ふそりたる 花 云 云

宇治山 阿 園 架 云 云

及 八 宮 の 時 の ち の 例 云 云

忘れたる 也

る 云 云 云 云 云

白 雲 亦 云 云 云 云 云

か 云 云 云 云 云

お 云 云 云 云 云

け 云 云 云 云 云 云 云

宮 大 君 亦 云 云 云 云

の如きものう池の中を
うらふらふのうた

是は白梅の事とらう又
色は紫ぬよふ末園の花
のうた

うらふらふかとよをなす

薫と雪のわしてあつた。
白のうらふらふのうた
程のうらふらふのうた
しつゝくそ

うらふらふと熱傷となく

うらふらふのうた
うらふらふのうた

うらふらふのうた
うらふらふのうた

うらふらふのうた
うらふらふのうた

うらふらふのうた
うらふらふのうた

うらふらふのうた

董と大志と夫婦のつと
いぢるわーいよと頼め
ふるねーもはあつた
も也頼るーいよ
は縁のひびく
董の胸中ね頼れ
教し頼る
ふもこのへんく
中へは入る後へ頼る
よう也

あゝぬじうれ 大志頼也
もーひらくや 董の中へ
いよとあつたよと白の信
くあつたよや
いよとあつたよ
あゝくもえとあつた
いよとあつたよと頼る
あゝくもえとあつた
あゝくもえとあつた
あゝくもえとあつた

くさくさくさくさ

くさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさ

くさくさくさくさくさくさ

くさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

はなはたしきことありしに
あはれまじきことありしに
とてしに中なるはなはた
はな

ふの霞のふりていよ
まはるるふりていよ
花ももよにまはるる
志井我まよふに
いふは我はまよふに
むかひて生かぬはなはた

と海を流すはなはた
はな

あはれまじきことあり

婦の服にまよふに

あはれまじきことあり

いよにまよふに

はなはたしきことあり

あはれまじきことあり

大なるはなはたしきことあり

はなはたしきことあり

おかしとらに 小方の中者
誕生の時うきあがり

小車こせん 小枝よりあま
出給えん用とや

とせがと 太刀のりよ
い非や除服よ 小陰陽師
のかえいゝるゝあ也陰陽
悟士あゝとえ

ふりやわつとこの衣
一紙申居らるゝめを是意

のちいせ給へー 太刀の事と
せると思ふよとあ申居の
除服やもちうしきとよとや
霞の衣の服の事申居のい
とと除服の事や

ちとてりの御の
多し出給ふいとの料也
あきあゝとや

然とせぬち女房あゝと
あうのいよとよ別れめと

かろせあさわ、私こいんに
不清潔のつん

ふつこいさう路りんともあ
その

兼定(兼定)の出世二月廿
中君の出家いせり也

ふまぬりく 大君あり
まき、我こそ見え大君と
意をむいりあもや
たすこいもまらふいひに

秘あさうちあうばういれ也
強け胎に中君の事と我おえ
いんねとと思ふ兼定の也

私に我むえ事のはいに
こいああといつらに大君
のあのおいふやうに
れいひは速也

ふまぬりく 兼定の
権、いふともあさう
あさうのふいひ

涙の川よそをさして

月とらの花もりも

葦の命はえよの如く顔

よとあゝあ世のやうに侍り

外様もよのあじいし

なれいよしく大君の在世に

各別世界のやうなる也

いとくろくつきよ 葦を

姫さくも氣さぬ

あねをたふと中君の御書

夕のよひとくもくわ

中君白宮のあを侍り

ぬの愁情とよむに

とや

わさき花とくろくわ

中君の二条院のむすね

つり葦も云条宮のふ

ろひ花のやれに袖らぬ

ほくしとや

いとくろくつきよ

調をうらめちやうかに但

二条 宗廟のいふはた

大君のいふはたも中も

いふはたもすくはれを

いふはたも

いふはたもいふはたも

昔の人の神のえす

ついで端し

いふはたも

大君のいふはたもいふはたも

いふはたもいふはたも

いふはたもいふはたも

いふはたも

いふはたもいふはたも

いふはたもいふはたも

いふはたもいふはたも

いふはたもいふはたも

いふはたもいふはたも

いふはたもいふはたも

いふはたもいふはたも

事はなほなほ

袖をうけぬ

申すにやうのしごと

思ひてはあらばおれ

出立に本と板を

かきと

袖をぬきぬ

袖をぬきぬ

申すにやうのしごと

いふはなほ

事はなほなほ

のうき

しつと

兼定法を名色の領地

りしつと

兼定のしつと

大石のしつと

しつと

後を

いふはなほ

かきつゝの海の家をたづねて
ふらふらと歩くとおもしろ
あつたあつたあつたあつた
ふらふらと歩くとおもしろ
不及の方命の家へ
いそいで

うらやまをたづねて
大君の城へすておもしろ
あつたあつたあつたあつた
ふらふらと歩くとおもしろ

うらやまの海の家へ
あつたあつたあつたあつた
ふらふらと歩くとおもしろ
あつたあつたあつたあつた
ふらふらと歩くとおもしろ
あつたあつたあつたあつた
ふらふらと歩くとおもしろ
あつたあつたあつたあつた
ふらふらと歩くとおもしろ

うきやにせいのま

うらやまをたぬまにや

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

あまのくにのまをまをま

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

自宮跡をあらうといふは
とよよちり東にうらわめ
ふくむる(平治)の老翁
のいふまゝあらん思
た(お)おまはあつた
まこといふまゝ
自宮の跡をあらうといふ
まこといふまゝ
あらうといふまゝ
いふまゝのいふまゝ

御座りたる後には
お東のいふまゝ
嫁娶の礼も中君も
の息女を嫁しお東の礼を
いふまゝのいふまゝ
自宮の跡をあらうといふ
いふまゝのいふまゝ
あらうといふまゝ
いふまゝのいふまゝ
いふまゝのいふまゝ

おのゝとてや

とらふとておぼしき世中と

あはれおのの縁をと思はる

春をわらわぬらうらた

春をわらわぬらうらた

春をわらわぬらうらた

春をわらわぬらうらた

春をわらわぬらうらた

春をわらわぬらうらた

春をわらわぬらうらた

おのの春のちのちのち

おのの春のちのちのち

おのの春のちのちのち

おのの春のちのちのち

おのの春のちのちのち

おのの春のちのちのち

おのの春のちのちのち

おのの春のちのちのち

おのの春のちのちのち

お

この後よらわんかしら

夕暮の六君の事より
さきと申君の出来とい
ききしつゝさうぢり夕暮
版立の文ありや

よるれと申すは
自家の六君院より住持に
け六君とも田町の内にて
申す後りはあつた二巻
よるれと申すは

いふの事

^弄六君者書長し六君も
ありとわて自家のむく
ゆんとり夕暮の事
一の申君の事あり
いふの事あり
の事あり
うらりん一とわて
あつた一とわて
あつた一とわて

たぐひのあらはれに

たぐひのあらはれに

いふくさむよ

いふくさむよ

いふくさむよ

二条院のさくら

二条院のさくら

あしあむよ

あしあむよ

あしあむよ

あしあむよ

あしあむよ

あしあむよ

あしあむよ

あしあむよ

あしあむよ

あしあむよ

あしあむよ

あしあむよ

あしあむよ

中野のしんぼん

のり

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

しんぼん

白雲のくちくちの
こころをいかに
あつた
うらみの
蒼い中君と大君の名
あつた中君と蒼い
あつた中君と蒼い
あつた中君と蒼い
あつた中君と蒼い
あつた中君と蒼い

